

<視察報告>

開成町長 山神 裕

神奈川県土地改良事業団体連合会足柄上支部 並びに 神奈川県足柄上地区土地改良事業推進協議会の主催による先進地視察に参加いたしましたので、下記の通り、ご報告いたします。

○日程： 令和5年10月24日(火)

○主催： 神奈川県土地改良事業団体連合会足柄上支部

神奈川県足柄上地区土地改良事業推進協議会足柄西部清掃組合

○参加者： 神奈川県土地改良事業団体連合会足柄上支部 本山支部長(松田町長)、

神奈川県土地改良事業団体連合会専務理事、

神奈川県西地域県政総合センター 農政部足柄上ほ場整備課長はじめ30名

○視察先： 山梨県北杜市役所明野総合支所

(株)ベジ・ワン (農地環境整備事業(※1)天王原地区。パブリカ栽培ハウス農場)

(※1)農地環境整備事業：国土交通省の事業。耕作放棄地が介在する地域において、営農の再開が見込めない区域と営農を継続し生産性向上を図る区域を計画的に区分し、耕作放棄に伴う悪影響の除去又は耕作放棄地の利活用を通じた国土・環境保全と、優良農地の生産性向上を図るための整備を一体的に実施する事業。

市町村が作成する農地環境整備計画に即して作成される「農地環境整備事業実施計画」に基づき、農業生産基盤整備及び保全管理等の事業を適切に組み合わせたメニュー方式により実施する。

事業メニューとしては、区画整理や水田転換などの農業生産基盤整備事業と、高付加価値農業整備や附帯整備などの保全管理等整備事業に区分される。農山漁村地域整備交付金が都道府県・市町村に交付される。

○視察目的： 農水省・農地環境整備事業として、耕作放棄地が介在する中山間地域において、営農継続が難しい区域と生産性の向上を図る区域を区分し、耕作放棄地を利活用した一体的な整備手法の取り組みについて学ぶこと

○視察概要:

1. 山梨県北杜市役所明野総合支所

山梨県農政部担い手・農地対策課、北杜市産業振興課担い手担当、北杜市農業振興公社の各ご担当者から「北杜市農業企業参入事業」についてご説明いただきました。

(1) 北杜市について

・人口約4.3万人。面積約60ha(県内最大の自治体)。平成の大合併にて8町村が合併して誕生。

(2) 北杜市の農業企業参入事業について

・第3次総合計画に位置付け、農業法人等の誘致を積極的に推進。

目的は、①地域の新たな担い手の確保、②雇用機会の創出、③荒廃農地や耕作放棄地の解消、④固定資産税・法人市民税等の税込増加。

・平成23年度以降、企業の進出が本格化し、昨年度末までに26社が進出。146haの荒廃農地が解消。地元で600名の雇用が生まれた。

・雇用はパート中心。若者や女性の望む働き方にマッチ。近年は労働力不足が課題となっており、スマート農業の採用や挑戦が始まっている。

・企業の参入に際しては、県・市・公社と連携し、プロジェクトチームを編成。助成金や農地の選定、施設整備などに関して支援策を提案し、ベストな方向へ導いている。

・企業に対して参入の依頼・要請を行ったことはない。なぜなら、北杜市には以下のような魅力・優位点があり、企業の側から北杜市で農業を行いたいという希望に基づく事例しかない。

北杜市の気候的・環境的優位点は、①日照時間の長さ(約2,500時間/年、cf.日本の平均2,000時間)、②名水の郷(日本のミネラルウォーターの40%を産出)、③盆地特有の昼夜の温度差、④交通アクセスの良さ(首都圏、名古屋圏いずれにも100~150km)、⑤桑園跡地が多く、大規模なほ場の確保が可能、など。

以下は質疑応答にて。

・市独自の補助金制度はなく、国や県の制度を利用。

・参入に際して、新たな道路整備や開発は行わない。あくまで、現状のままで最適の場所を紹介している。

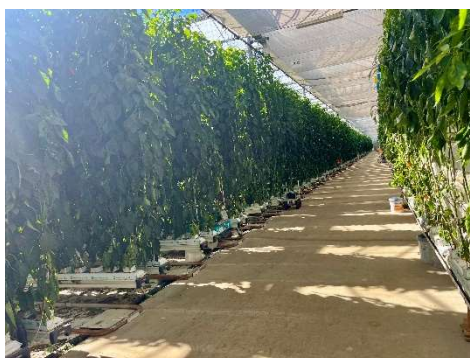
・課題としては、景観を重視して/に惚れて移住してこられる方が多い中で、農業施設がその景観を損ねてしまう恐れがあること。

・農地の賃料相場は、個人向けは一般的に5,000円前後/反、法人向けは約20,000円/反。

## 2. (株)ベジ・ワン パプリカ栽培農場

・(株)ベジ・ワンのホームページ: <https://www.tsckobe.co.jp/business/production/paprica-farm/>

- ・平成28年、約2haのガラスハウスにて、パプリカの養液栽培を開始。
- ・養液の原水は地下水と雨水(水のコストはゼロ)
- ・パプリカとしては全国で初めて、栄養機能食品の表示を認定された。
- ・ロックウールを使用した水耕栽培。ロックウールは保水性が高く、病気の発生も少ないとされる。一方、使用後には産業廃棄物になるため、環境対策として、すでに使用禁止となっている自治体もある。
- ・収穫高は平均して22kg/m<sup>2</sup>。全国の平均約20kg/m<sup>2</sup>よりも多い。
- ・収穫を終えた枝・茎は枯らした後、チップ化。



### 3. 視察を終えて

・農業企業の参入事業について、参入のお願いしたことはなく、企業側から進出してくるとのこと。気候的・環境的な優位性はその威力をいかんなく発揮している。また、桑園跡地が多いため、大規模な農地が確保できるという点も、この地ならではの特徴であり、参入を後押ししている。

翻って、開成町の場合は、町域自体が広くない上、気候的にも格別の特徴や優位性は乏しい。企業による農業参入は放棄地対策等において非常にありがたいことに間違いないが、待ってはなかなか訪れまい。当方から積極的に働きかける営業活動が不可欠である。官民の農業関連機関とも連携しながら、また、既往の仲介制度も活用しながら、引き続き、企業を含めた担い手の確保に努めたい。

・(株)ベジ・ワンさんに関しては、非常に珍しい国産パプリカにチャレンジしたことを称賛したい。栄養価などの品質へのこだわりや環境への配慮もさることながら、競争のより激しくない品でリスクを負って勝負を挑んだことの意義は大きい。それでも、昨年までは数百万円規模のコンサルタント料を支払い続けていたとのこと。軌道に乗るまでには相応のコストを要するという事です。

私自身も小田原市の農場にてフルーツマトの栽培に、僅かながら関わった縁があります。開成町においても“儲かる農業”を模索したいとの思いはありますが、最終的には農家の本気度やセンス、リスク許容度に因るところあり、小規模自治体が主導できる類ではない。こちらも官民の農業関連機関との連携が重要になるかと思えます。

(以上)